

平成 29 年 11 月月例記者会見

会見記録

1. 生駒市と株式会社モンベルとの包括連携協定締結式

- ・ 出席者紹介
- ・ 協定書署名
- ・ 記念写真撮影
- ・ 市長あいさつ

市長 本日はたいへんお忙しいところありがとうございました。また、包括協定を締結させていただきます株式会社モンベルの皆様、本当によろしくお願いたします。ありがとうございます。

今回の協定でございますけれども、ご案内のとおり、モンベルさんとは生駒山麓公園の指定管理を通じて、今も既に、たいへんお世話になってございます。ただ、今回の協定を結ぶことで、山麓公園の中のいろんな取り組みはもちろんのことといたしまして、山麓公園以外の生駒市内、そして生駒の幅広くさまざまな市民にとって大きな意味を持つと思っております。と申し上げるのも、もちろん皆様ご案内のとおり、モンベルはアウトドアのブランドとしての、トップのブランドの地位を確立しておられるだけではなくて、非常に、それぞれ各店舗、各地域で具体的な取り組みを、実践をしておられます。また後ほど少しお話もさせていただきますけれども、そして、さまざまな具体的な活動、自然山系のいろんな取り組みが非常に有名ではございますけれども、環境でありますとか、防災、そして福祉、障がい者、高齢者のことでもありますとか、あとは、農林水産業、さまざまな分野での活躍をされておられますので、生駒市においても非常に大きな、そしてまた具体的に素晴らしい連携が、これから具体化していくんだと思っております。

また、モンベルさんは全国に無数のモンベルファン、モンベルクラブの会員がおられますので、そういう方々に対して生駒市というものを発信していくという、逆のまたお願いもできるのかなと思っております。

この協定をきっかけとして、山麓公園だけではなくて、さらにより広い、幅広い分野で、そして幅広い市民のみなさまに具体的なアクションを届けていきたいと思っております。

たいへん私も楽しみにしております。今日がスタートですので、しっかりと頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

- ・ 株式会社モンベル代表取締役会長あいさつ

【 質疑応答 】

記者 今、会長がおっしゃった内容を、具体的に生駒に当てはめてほしいんですけども。生駒市に

当てはめると、どういう内容になりますか。全部じゃなくていいので。

モンベル会長 これはもうあくまで、7つのミッションというのは、今申し上げたように、全国。今ある意味これは、7つのミッションというのは、今まではボケーショナルサービスという言い方をしますけれども、職業を通じた社会貢献という意味合いで、アウトドアが、そういう大きな可能性を持っているということで広がっているわけですけれども。これに沿った形で、一個一個というには難しいのですけれども。

記者 一個一個ではなくて、主にこんなことを考えていますとか。

モンベル会長 例えば、山麓公園は既にある意味もう具体例として挙がっておるわけですが、子どもたちの生きる力、自然環境、ひとつふたつ、そういった。

記者 山麓公園でこんなことをしたいという。例えば、子どものキャンプをすとか、例えばですよ。

モンベル会長 もう既にしています。

記者 しているのはわかっていますけれど、でもそれをモンベル側の言葉として、こんなことをしたいという例を2、3。3つほしいですね。

市長 今もう既にやっていただいていることも、たくさんあるんですけど、そこを当てはめているものもありますが、この7つというのはモンベルさんのすごくコアの部分で、7つとも生駒市にもすごく重要なことだと思います。具体的な話を言うと、例えば、5番目のところのモンベルさんのフレンドエリア。実は生駒にもすごくいいところがあるんですけど、例えば、こういうところを歩いたらすごくいいだろうなというところを、モンベルの目で見えていただいて、たくさんの方に自然を楽しんでいただくような、そういうエリアの設定を目指して。そこに設定されるとモンベルさんの季刊雑誌みたいなのに乗せていただいて、「じゃあ生駒ちょっと行ったるか」と「行ってみようか」というような方がモンベルの会員の方が。フレンドエリアというには是非認定していただけるよう我々も頑張りたいと思います。

記者 どっちを目指すのですか。タウンとエリアと。

市長 タウンでいいんじゃないですか。

記者 生駒市だとタウンになるんですか。

モンベル会長 呼び名はもうそれぞれで、タウンやフレンドアイランドであったり、フレンドマウンテンであったり。地域全体、今、84か所、全国に提携しているところがございまして。

記者 生駒市だとタウンだと思いますし、生駒山だとエリアだと思うんですけど。

モンベル会長 呼び名はあんまり。

市長 この25個、今、締結されている中ではタウンというところが多いので。そこは、また生駒のことをモンベルさんに見ていただく中で、呼び名がどうかということは。

そういうことに認定いただくということとか、具体的なことを言うと、ふるさと納税の返礼品にモンベルの商品を入れていただいたりとか。あとは、もう本当に生駒市で今やっていますけれど、ユニバーサルキャンプていうのを、さっき話しましたけれど、これは本当、全国でも先進的な事例で、こういうのをやりたいよねっていう声はもういろんなところであるんですけど、具体的のここまでの規模でやっているところは多分ない。

記者 もう既に実施してますよね。

市長 それを、さらにもっと人数を増やしたり、障がいの種別にも対応し来てもらっても大丈夫なように。

記者 つまり、そうすると、既にやっているものも結構あるわけじゃないですか。既にやっているものの代表としてはユニバーサルキャンプで山麓公園でかかわって、既に、山麓公園で SUN FESTA でも、モンベルプレゼンツでいったようですけど。いくつかあるようですね。既にやっってる代表例が、ユニバーサルキャンプであったり。

市長 自然体験のところ、1番とか3番とか、山麓公園の自主事業でどんどんやっていただいていますから。

記者 これ通常やっってるんですか。

市長 はい、山麓公園の自主事業として。

記者 あと、代表例として。

市長 6番の農業体験。今年やってなかったですか、農業ウェアのファッションショー。

記者 今年やってないのではなく、既に代表例で言うと。

市長 1番とか3番の山麓公園でやっていただいているいろんな自然体験事業です。

記者 じゃあ、これからは、協定を機に、これからやろうと思う代表例を3つ挙げると、一つはモンベルタウンの認定、あと二つは。

市長 ふるさと納税。もう一つは、防災関係のいろんな子どもたちへの教育的な事業であるとか、防災キャンプ。今、やっていることもあるんですけど。

記者 これからやろうとする、今やっていることはやめて。

市長 それは、中身を確認していくということもあるから。

記者 それもわかったから、こっちの聞いている質問に答えてほしいんだけど。とりあえず、やってることと、これからやることを整理して。

市長 それだったら、今の二つ。

記者 これからやることは、この二つ。

市長 モンベルタウンの認定を目指してやります。

記者 でも、市民にもっと。市民生活に云々という話もさっきされたわけだから。そこにやると、子どもたちも参加に。もっと他に。今のところそのままいいんですか、防災教育というような。

市長 それも一つ、より大きないい形でというか、充実した形でやっていただこうとは思っているの。

モンベル会長 今、生駒市との取り組みは、具体的にどんどん進んで行っている事実の中で、ご質問の中で、もう既にやっていることは今申し上げたとおりですけども、逆にモンベル側の立場で言いますと、フレンドエリア登録であったり、例えば、「ジャパンエコトラック」という取り組みがこの中に入っておりますけれど、これは、全国、今10か所で登録されてますけど、この推進協議会の代表は養老孟司さんでいらっしゃるんですけど、全国で人力だけを使った、例えばカヌーとか自転車、ウォーキングだけで旅をする全国マップを、環境省とも協力いただきながら進めております。モンベルは先日、環境省から国立公園のオフィシャルパートナーの認証をいただきました。そういうことも含めて、日本国中を、いちばんわかりやすいのは、東北の八戸から福島までの三陸海岸を人力だけで移動する「みちのく潮風トレイル」というのが、これは環境省が整備していていますけど。こういったところを含めた「ジャパンエコトラック」という取り組みを我々は非常に一生懸命推進しております。モンベル側のプロポーザルとしては、そういったことへの登録も検討いただきたいなということは、我々の方から提

案させていただいております。これは、多少なりとも費用のかかることですので、これは皆さん方の合意をいただきながら、協力のメリットがあれば是非やっていただきたいというふうに考えております。

記者 やっていただきたいというのは、生駒だったら生駒山地。

モンベル会長 具体的なことに関しては、まったく今手がついてませんから。これから、生駒山だけではなくて、矢田丘陵とか、ずっと昔からの暗峠を越えた、日本で最初の道と言われているような峠道もありますし、いろんな所をこれから精査していくような取り組みもご検討いただいて、そのうえで、もし可能性があるのであれば、本格的な調査に入っていきたいと考えています。

記者 これを見ると自治体では手におえないようなエリアも。

モンベル会長 必ずしも全部を網羅するということまでは考えていません。

記者 よくわからないのですが、10 エリアあって、生駒にもご協力願いたいと。

モンベル会長 ご協力というよりか、ご検討いただいて、もしご興味があれば、是非やっていただければ。

記者 その時に、生駒市という自治体エリアで。エリアは広いですよ、どこも。例えば、琵琶湖・伊吹山にしても、大江山にしても。自治体エリアというよりも、もっと違う自治体ではない自然のエリアとして設定されているけれども、今のこれは自治体との協定なんだから、生駒という自治体エリアで。それぞれ一つずつの自治体と締結しているのですか。

モンベル社長 広域の場合もあります。例えば、境港がありますが、これは全部鳥取県の中に入っています。市町村で完全に収まっているのは、鳴瀬川・薬菜山、これは宮城県に加美町です。

記者 加美町。これは協定されてるんですか。

モンベル社長 包括連携協定を結んでいます。

記者 締結後に認定したんですか。

モンベル社長 トラックのルートの設定は、その前にやっております。必ずしも包括連携協定ありきで、これを進めているわけではないので。

記者 そうすると、連携することによって、より議論がしやすいというか、協力関係がしやすい。

モンベル社長 そういうことですね。

記者 イメージで、名称はあるんですか。生駒山・矢田丘陵みたいな。

モンベル会長 それはこれから精査していきたい。これはあくまでモンベル側の思いであって。

市長 そういうのをどんどん提案していただくのが協定であって。新しいことと言うのはよくわかるし、新しいことのどんどんやっていくんですけれども、締結を結んだ時に何もやっていないというより、我々もう既にいろんなことをやっているところがありますから、その信頼関係の土台の上、ますます発展させていったり、新しいこともやっていくかもしれませんし。

記者 つまり、締結がなくてもこれまでできているのであれば、締結の必要もないわけじゃないですか。それぞれの信頼関係で。締結を結ぶということは、締結がひとつのステップアップにつながるということで。そのステップアップの部分を。

市長 それは、新しいところも、今までも、さらに。

モンベル会長 今ある25のエリアのモンベル側の論理を申し上げますけれど、例えば、防災の話で言いますと、これは自動的に防災協定が結ばれていくことになるんです。例えば、10のエリアで災害補助をしていくということになれば、そういったところに関しても、お互いに協力し合える関係になるんじ

やないかということが、その先に見えてくる。それは前提ではないですけど、その先に見えてくる、いわゆる複数のエリアと包括協定、包括というのはまさに包括的に協定していくわけですから。エコリズムというのは、ご指摘のとおり、エリアがまたがっていく十分可能性がありますから。これをネットワークに加わっていくことによって、市全体で推進力が加わっていくと。一対一の関係でありながら、同時に協定においてはトラックのような取組み、それから防災の取組みに関しては、さらに強力に対応していくことができるということだと思います。

記者 具体例として、テントや寝袋の親子体験、これは実際にやっているんですか。やっていないなら、やるっていう方向で、これはいいなと思ったんですけども。

市長 防災キャンプは既にやっていただいています。モンベルさんが協定結んでおられるようなところなんかとは、大きな災害があったときに、モンベルさんと助け合えるような、防災でいえばそういうところもあるかと思います。

記者 この協定の声掛けは、どちらからしたんですか。

市長 山麓公園の関係で会長といろいろと話をする中で、ご提案いただいて、生駒市も是非ということで。

記者 締結の経緯なんですけれども、指定管理としてもともと生駒山麓公園の管理をモンベルさんがやられていて、そのご縁、またイベントなんかいろいろ連携していたので、その縁から今回締結となったということでしょうか。

市長 そこから、今申し上げたように、「こういういろんな自治体と協定を結んでいるんですよ」「こんな活動してますよ」といお話をいただいたので。山麓公園の関係で集まるようなときだったと思いますけれども。生駒市としても山麓公園だけでなく、生駒市内にいろんなところがありますから、そういうところも含めて、協定を結んで具体的にしていきたいと。

記者 今質問したのは、生駒山麓公園が縁だったんですよということなんですが。

市長 山麓公園がご縁で、そこでそういう話が出たということです。

記者 会長は、奈良市在住ですけど、奈良県エリア、この25も既に各地で自然の多いところですけど、奈良県が天理大学以外とは、遅いような。

モンベル会長 そんなことはないですよ。例えば、奈良市、仲川市長の奈良市からは、山の辺の道とか、ちらちらいろいろ出たりはするんですけど、そういう調査等、調べさせていただいた経緯はあります。

記者 こういう提携はされてないですよ。

モンベル会長 していません。提携が始まったのは去年からの話なので。この1年間で20以上のエリアとの提携が始まっていきます。

記者 すごいペースだと思うんですけど、奈良県の記者なんで奈良の話をするんですけど、奈良県エリアでも近い将来、結構予定されているんですか。

市長 どういう経緯でこの話が始まったんですかという、まさにその話なんですけど。我々が積極的に47都道府県に声を掛けられるかという、ちょっとそれだけのことでできませんから。そういうタイミングと、ご縁と、お互いにそういう思いがあったときに、そういう形になっていくと思うんですけどね。

記者 つまり奈良県で今のところ予定はない。

モンベル社長 今はないですね。ただ、五條とか。

記者 大台ヶ原とか。

モンベル社長 こういったことが行われているということは彼らもつかんでいるので。

モンベル会長 問い合わせはたくさんあります。

記者 さっきの市長の話じゃないですけど、一つの契機があっても、なんらかのつながりがないとこれに発展していかないと、提携に発展していかないと。なくてもやれることはあるんですけど。

モンベル会長 例えば、岡山県の備前市の市長と大阪で調印式があるんですけど、僕は正直 1 回も行ったことがないんです。まだ市長とはお会いしたこともないです。でも、調印するという事は。埼玉県の長瀬町の町長さんも来られましたけれど、僕はそのとき初めてお会いしました。

記者 お店は生駒には。協定が結ばれて、お店がないというのでも。

モンベル社長 まだ未定ということで。

記者 協定書にある生駒への貢献は、ソフト面ではされているんですけど、お店というハードは。

モンベル社長 ご縁があればなんで。

記者 生駒に店があるといいなど。

モンベル社長 出店は結構微妙ですよ。条件もあるし。

記者 山麓公園には作っちゃいけないんですか。

モンベル会長 法律面はちょっとわかりませんが。

記者 近くで買い物ができるればいいなど、市民としては。市民レベルで普通に考えたら、モンベルと生駒市が協定を結んだら、お店ができるのかなと思う人がいてもおかしくないのかなど。

モンベル会長 岡山の備前には店はございませんし、必ずしも店があるから協定を結んでいるということでは、まったくない。

記者 それはわかります。そういった社会貢献的な分野で貢献されるということですよ。

モンベル会長 ボケーションサービスと我々は考えていますけれど。

記者 一般のモンベルを知っている人間であれば、モンベルが社会的に、東日本大震災のときにテントを何張も送った素敵な話だとか、それはモンベルを知っている人はわかるんですけども、まったくモンベルを知らない、ただのお店としてモンベルを利用している人からすると、そのモンベルというのはお店だと、多くの人はそう思ってるんですよ。そのときに、生駒市と締結しました、店ができるのか、いや店じゃないです社会貢献です、とは。その辺は誤解されない方がいいのかなど。

モンベル会長 ここには店は書いておりませんね。

記者 山麓公園の指定管理はいつから。

モンベル社長 平成 26 年。

記者 26 年から何年間で。

モンベル社長 10 年間。

記者 イベントの話なんですけれど、モンベルさんが企画して生駒市が実施するというようなイメージでよろしいでしょうか。

市長 山麓公園の指定管理者としてやっていただいているものについては、例えば自主事業としてやっていただくものはモンベルさんにやっていただいて、参加費なんかも取ってやっていますし、例えば、この協定に基づいて山麓公園以外でするようなイベントもあるかもしれませんが、そのときは。

記者 モンベルさんの会員組織は名前を何ておっしゃるんでしょうか。

モンベル社長 モンベルクラブです。

モンベル会長 今 79 万人です。

記者 雑誌があるんですかね、会員向けの。

モンベル社長 はい。

記者 会員向け雑誌とかで生駒市の魅力を発信していくと。

モンベル社長 フレンドエリアになれば、当然そういったことをやっていく。

2. カレンダーアプリ『ジョルテ』で生駒市オープンデータを活用した地域情報配信サービスを開始

市長 本日の二つめは、カレンダーのアプリで 1100 万以上ダウンロードがある、非常に多くて人気のあるアプリ、「ジョルテ」というアプリ、これと生駒市のオープンデータを連動させていただきまして、市民の方々にこのカレンダーアプリを使いながらして生駒市のイベントでありますとか、学校の給食、ごみの収集日などを見ていただけることになりました。本日からサービスが開始されております。

大きく 3 点ございまして、簡潔に申し上げますけれど、先程申し上げたように、いわゆるオープンデータ、生駒市のオープンデータを提供させていただきまして、それをジョルテさんがアプリという形でデータ化していただいているというのがひとつ。そこに実際、使い手の方の好みとか、そういうものを解析しながら、より必要な情報を出していくような AI の技術を NTT ドコモさんからご提供いただいているという、この 3 者の連携でできたサービスでございます。この 3 者でこういう形で発表させていただくのは、今回が初めてのことでございまして。二つめは、市民自らがカスタマイズと書いておりますが、先ほど申し上げたように、実際に自分の必要な情報、イベント情報であるとか、給食、ごみ収集とか、この内ひとつでもいいかと思えますし、自分の使いやすい地域の情報にカスタマイズして使っていただけるということが、今でもできますし、さらにこれからそういうところも発展していければなと思っております。

3 つめは、本日からサービス開始と書いておりますけれど、申し上げたように、市内のイベント情報、学校給食の献立、ごみの収集からスタートしてましてけれど、例えば、ニーズが非常に高いと思われる学校の関係のイベントとかの情報、また、先日、自治会と IT のアイデアソンなんかもやりましたけれど、自治会の情報とか、そういったものも将来的には読めるようにしていけば、非常にいいんじゃないかなと思っております。自治会の方なんかも、結構、情報をどういうふうにして回していくのかとか、回覧板だけでは限界があるねということ、この間もおっしゃってまして、こういったところも使っていくことで自治会活動の活性化にもつながっていくかと思えます。

最後に、昨年度の生駒のシビック・テック・アワードという、今年ではなく去年なんですけど、カレンダーアプリなんかで生駒のいろんなイベントとかそういうものを見れるようになればいいよねという話が、その時に出て表彰されているんです。そういうふうなことも、今回、ジョルテがや NTT さんとの連携につながったということでご紹介をさせていただきます。

- ・ 株式会社ジョルテ 代表取締役社長 説明
- ・ NTT ドコモ 担当部長 説明
- ・ デモンストレーション

【 質疑応答 】

記者 生駒市カレンダーの利用方法なんですけれど、これはQRコードだけですか。

ジョルテ社長 QRコードを読むのと、QRコードを読まなくてもGPSで生駒市周辺にいる場合は、見ることができます。

記者 GPSが生駒市にいたら感知して。

記者 入ってないですよ。生駒市にいるけど。

ジョルテ社長 これは昨日アップデートさせていただいたので。

記者 利用方法としては、QRコードを読む方法と、GPSで自動的に出てくるので選択していくという方法とがある。

ジョルテ社長 現時点ではそういうことです。将来的には、右下のボタンについてもGPSで判断していく。

記者 これはシビックテックでのアイデアを。

市長 そうじゃなくてですね、もう少し丁寧に申し上げますと、たまたまシビックテックの時に、そういう生駒市のイベント情報とかを、もっとカレンダーアプリとかに入れ込んでいったらわかりやすいのにおとか、そんなアイデアがあって、それが表彰されているんですけど、それはただアイデアで、このあいだの「4919(食育)」みたいに実現するかなと考えていた時に、社長に生駒市に来ていただいて、お話しいただいたようなご提案をいただいたので、これいいねという話をして、じゃあちょうどオープンデータで生駒市のイベント情報を出せるので、そういう形でできるといいですねというお願いをしまして、そしてNTTにも入っていただいて、アプリができたということです。最初のきっかけは、社長に来ていただいてお話しいただいたことで、そういう市民からの要望もございましたので、市としても何か形にしたいなということです。

記者 去年、まさに「4919(食育)」が賞を取って、もうひとつアイデア賞みたいなものですよ。

市長 そうです。そういうのを何か形にしたいねと職員に言っている時に、タイミングよくご提案いただいたので。

記者 社長は講演か何かでこられたのですか。

市長 いいえ、ちょうどこのジョルテのカレンダー方で地域の情報をスケジュールカレンダーアプリで先程おっしゃったようなことを、ジョルテという会社があるでと生駒市に紹介して下さった方がいらっやしまして、それで生駒市で市長室でお会いしまして。講演とかじゃなくてご紹介です。

記者 イベントとかじゃなくて個人的に来られた。

ジョルテ社長 もともとジョルテにいろんな自治体さんの情報を出そうとして、情報を集めてたんですね。その関連で生駒市さんにお邪魔させていただいて、我々の構想の話をさせていただいたら、生駒市さんも考えられてたということです。

記者 それは何月のことですか。

市担当者 一番最初にお会いしたのは今年の1月です。

記者 社長さんが、アイデアを意気投合したのはいつなんですか。

市長 何月かは忘れまして。

記者 ジョルテは自治体とこういうことをするのは何例目なんですか。

ジョルテ社長 自治体さんの情報を配信するという観点では、5つぐらいの自治体さんの情報は配信させていただいております。今回は利用者の情報を、現在地ですとかいろんな情報に応じて情報を出しわ

けるというところをやらせていただくというスタンスなんですけど、そういった意味で言うと今回が初めてです。

記者 つまり、右下に「生駒市」といたアイコンが付くのは。独自のカレンダーに切り替える機能を設けている自治体は他にあるんですか。

ジョルテ社長 あります。

記者 それはどこですか。

市長 5つくらいです。広島県と。

記者 県レベルですか。

市長 難しいですけどね。おっしゃっている意味はわかりますが。

記者 このサービスが極めて珍しいことなのか、普通であるのか。普通であるならば、いくつか教えてほしい。

市長 生駒市ボタンが出て、ピッと押せば生駒市の情報が出るような形での連携というのは初めて。

ジョルテ社長 機能としては持っているんです。機能としては持っているんですけど、こういう形で自治体さんと一緒に発表させていただくのは初めて。

記者 例えば、僕もジョルテカレンダー使っているからわかるんですけど、これは切り替えられるから非常に便利。ごみ出しカレンダーでしたら、他の自治体がすごいがありますよね。

ジョルテ社長 そうですね。ごみ出しカレンダーは全国的に。

記者 そういう理由で。

ジョルテ社長 自治体ボタンが付くという意味では、初めてではないんで。

記者 その時に、生駒市のオープンデータを積極活用されているから、他の自治体とはそこが違つかいというのはあるんですか。

ジョルテ社長 オープンデータを活用させていただいて、情報配信するのは初めてです。

市長 あと、まだこれは検討していきますけど、学校行事、あとは自治会ですとか、そういうことを入れていければと思います。

記者 生駒市がというのは、オープンデータがあるからですか。

ジョルテ社長 オープンデータがあるからではないです。オープンデータがあると我々もやりやすいということです。

市長 それを提供したからできているということです。市内のイベント情報とかを、我々がオープンデータで提供して、それをこういう形で自分の予定のところに地域のイベント等を入れていただく、これは初めてです。他の自治体にはないということです。

ジョルテ社長 ジョルテに表示されるだけでなく、利用者の状況によって、情報の出しわけができるというのは初めてになります。これはドコモさんの技術を使わせていただいて、利用者の本当に必要な情報を出していく。

3. その他の紹介案件

【説明】

〔生駒市とアンコーナ市（イタリア）が国際都市間協力〕

市長 ひとつめが、生駒市とイタリアのアンコーナという街がありまして、そことの関係で、都市間

協力をするという。これが、国土交通省が支援しまして、EUが実施しているんですが、それが日本では国土交通省が受けて、国際的な日本の都市と、海外の、特にEUの都市とつなぐというような、そういうプロジェクトがあります。EUが主導してますけれど、それを今回国交省からの募集があつて、生駒市さんどうですかということで、今回手を挙げさせていただきました。生駒市のペア、どういうところと組むかということ、いろんな国のいろんな街が向こうも手を挙げているんですけど、生駒市はイタリアのアンコーナという街と提携をするということになりました。具体的には、今後18か月かけて、向こうの人たちが生駒に、日本にやってくる、こちらもアンコーナに人を送って、いろいろ学んでというようなことをして、最終的にアクションプランみたいなものを考えていくような、そんなプロジェクトでございます。

ふたつめは、プロセスとして、もう既にこの先週ですね、市の担当者がブリュッセルに行きまして、調整をしてもらって、そこでアンコーナというのが最終的に決まったんですけど、今度来年の春に向こうからやってきます。来年の秋にはこちらからアンコーナに行く。そして最後もう一度向こうがやってきて、お終いということになります。

具体的な交流のテーマとしては、これも詳細詰めていくこともございますけれど、先進的な環境施策、クリーンエネルギー、スマートシティですね、環境をどう街づくりにつないでいくのか。あとは健康都市、あとは市民協働、最後にICTを活用したいろいろな課題。僕は福祉関係とかいろいろ言ってきましたけど、ICT活用による行政課題の解決。この4つが大きなテーマになります。

アンコーナっていうのがですね、人口は10万人くらいで生駒とあんまり変わらないんですけど、マルケ州という州がありまして、その州都でありまして、アドリア海に接している街ということで、私も今回の話で初めて知った街ですけど、そういう街だということでございます。他の5都市につきましては、参考に書いておるとおりでございます。

【新マンホールふたデザイン発表会開催！】

市長 ふたつめが、マンホールの蓋ですけども、総選挙みたいなことをやりまして、1万票以上ご投票いただきました。その集計の結果を12月2日にベルテラスベルステージで発表するということをしていただきたいと思います。

結果の発表はもちろんなんですが、マンホールのコースターみたいなものを作るワークみたいなこととか、そんなことをやっていきたいと思っておりますので、是非ご取材いただければと思います。

【「本棚のWA」第3話は、名刺でつながる本棚のWA 『吾輩は〇〇である。』を開催します】

市長 三つめが、「本棚のWA」。地ビールでの第1回目、ヴァイオリンの第2回に続きまして、これは年明けになるんですけど、1月の20日に生駒駅前図書室で、生駒市ご在住のですね平本久美子さん、「やっちはいけないデザイン」という非常に売れていると言っているんでしょうか、市内のデザイナーの方に来ていただきます。「吾輩は〇〇である。」と書いてますが、デザインのことを勉強するのにですね、名刺をひとつテーマにしようということになっています。平本さんのトークのあとに、実際に自分の名刺をその場で作ってほしいというようなことだとか、私の名刺が、何種類かあるんですけど、自分で作っている奴はやたら細かい記載がたくさんあって非常にわかりにくいと平本さんに言われ、市長の名刺をデザインしなそうと。デザインするから、次の日からそれをちゃんと使ってくれと言われて

ますが、みんなで市長のダメなデザインの名刺を直してくれということもやってくれるそうです。そんなことをやって、デザインを勉強して話を聞く、そんなことをするというところでございます。

【ビブリオバトル市内中学生大会を開催します】

市長 最後に、ビブリオバトルの市内中学生大会。これはもう3回目になります。毎年、12月22日、終業式のあとという感じでこの日なんですけど、各中学校からの代表がバトルします。8中学校のうち7中学校は参加することが決まっています。まだちょっと保留中のところもあるようなんですけど、ほぼすべての中学校が参加をして大会を行うということでございます。

今年は、お昼休みの時間に、本が好きなバトルをする中学校の子とか、ほかの友達、あとは図書館の司書さんとか、いろんな方が集まって、交流タイムなんかも設けながら、1時15分から予選、決勝は2時45分から行いますので、是非またご取材いただければ、たいへん子どもたちも喜ぶと思っております。

よろしく願いいたします。私からは以上です。

【質疑応答】

【新マンホールふたデザイン発表会開催！】

記者 新マンホールの蓋のデザインは、ここで発表するのですか。

市長 ここで発表します。

記者 雨天の場合は。

市長 しません。

記者 雨天中止の場合はどういう発表の仕方ですか。

記者 あそこ7つ置いてあるじゃないですか。あれをどう発表するのか気になるんですけど。

市担当者 ベルステージで発表させてもらいますので、また、子どもさんのマンホールの塗り絵とかも貼らせてもらいますので、晴れてる時だけということで、雨天中止ということをお願いしています。11時ころにはホームページで、中止の場合についてはアップさせていただきたいなと思っておりますので、よろしく願います。雨の場合は、ホームページで。

記者 ホームページのみですか。

市担当者 はい。

記者 これは、いつどこに設置するんですか。

市担当者 3月末までに、今考えてますのが駅前周辺で1か所。

記者 駅前というのは。

市担当者 生駒駅前。生駒駅前で1か所設置したいなと思っております。それはカラーマンホールということですよ。

市長 カラーじゃないのは、順次切り替えていくということなんですよ。

市担当者 はい。維持管理で老朽化したマンホールについては、毎年2、300交換しておりますので、来年度交換分から、カラーじゃないぶんについては入れ替えをしていきたいと思っております。

記者 年間200から300枚、来年度以降、交換。

市担当者 そうです。

記者 カラーじゃないのね、通常の。

市担当者　そうです。

記者　カラーは生駒駅前のどのあたりに。イメージはあるんですか。北口、南口、あるいはケーブルの近くとか。

市担当者　まだ検討中で。生駒駅、本当に周辺ということで考えてますけれども。

記者　ベルステージに置いてますけど、「これです」とかやるんですか。

市担当者　同じような形で、みなさんに見ていただけるようなマンホール大のもので。あれはあのまま貼ったまま、写真も撮っていただきたいのであのまましているんですけど。同じような実物大のものを作って。

市長　7位から順次。

記者　2位発表した時点で1位わかっちゃうじゃない。

市担当者　そうですね。

〔生駒市とアンコーナ市（イタリア）が国際都市間協力〕

記者　アンコーナなんですけど、これは生駒市が立候補したんですか。

市長　立候補しました。国土交通省とか、これ実務は名古屋大学なんですけども、名古屋大学からも「こういうのあるで」と教えてもらって、手を挙げたということです。

記者　いつ頃。

市担当者　9月下旬です。

記者　立候補。

市長　手を挙げて。そうですね。

記者　それで、いくつかの中から選ばれたわけですか。

市担当者　そうです。今回は、今回決まった5市だけが手を挙げたみたいなんですけど。

記者　手を挙げたのが、そもそも5市。

市担当者　そうですね。

記者　選ばれたわけじゃ。

市担当者　今回4市の予定だったんです。全部で8市、前期と後期で分かれるんですけど、4市だけだったんですが、5市手を挙げたということで、今回5市とも行きましょうということになったと聞いています。

記者　生駒市が、なんで立候補したかというところ。

市長　始めはエネルギー、環境を切り口としたまちづくり、自治体電力の話もありますし、それを、よく進んでいるヨーロッパの自治体と、教えてもらったり連携していきたいなところから手を挙げましたけれど。その他にも今申し上げたような、向こう側の他の関心もありますので。

記者　アンコーナは実際に何が進んでるんですか。

市長　環境の取組みなんかは、もちろんいろんな環境の対策とかありますけれど、進んでるまちだと聞いています。

市担当者　向こうに、ブリュッセルに行かせていただいて、向こうの市のプレゼンを聞いていたんですけど、ヨーロッパ全体が温室効果ガスの対策が非常に進んでいて、太陽光発電もたくさん

つけていると。それと、当然温室効果ガスを抑えるのは必要なんですけど、抑えられなかった時の対応も含めて、いろんなことを考えていると。ある程度温度が上昇した時にどうしたらいいかということも考えているということでしたので、そういうことも含めていろいろ教えていただければなど。

記者 後でもいいので、アンコーナ市がこんなことやってますという。

市担当者 今はないですね。これからいろんな。ただ観光も含めて健康都市の施策も進めていると。

市長 先程のプレゼンの中にも書いてあるようなことだとか、それ以外の健康とか市民協働とかで向こうがブリュッセルで話したようなことですね。具体的にはあとで担当からお話しできることはお話しします。より詳細は、これからまた決めていきますけど。

記者 来年、スケジュールで生駒に来られると。

市長 はい。

記者 市長が案内すると。

市長 僕もなんぼかは対応します。

4. その他

〔映画祭〕

記者 市長、映画の話は。

市長 もう募集は始まっています。リリースはまだしていないのですね。

市担当者 リリースはまだしていません。

市長 ホームページには載ってはいますね。

市担当者 広報の方にも載っています。

市長 投げ込みもします。

(了)